

第2学年B組 図画工作科学習指導案

授業者 三浦 茉莉
研究協力者 長瀬 達也
教材分析協力者 石井 宏一

1 題材名 シャボンでつくろう 海のものごた

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

絵に表すことやつくることが好きな子どもたちである。新しい表現方法に対する関心が高く、造形遊びとしてモダンテクニックを紹介すると、楽しんで吸収する姿が見られる。2年生ではパチックやスクラッチを体験し、絵の具をはじく表現の不思議さや下地の色が浮き出てくる面白さを味わいながら、自分の好きなものを絵に表す活動をした。新しい表現を純粋に楽しむ一方で、表したいことを見付けることが難しく、活動が停滞してしまう子どももいた。

本題材の前に学習した「えのぐをたらしめたかたちから」では、絵の具をたらしでできた網目状の模様を町や道路に見立てることで表したいことが思い付き、想像を広げる一助となっていた。

(2) 題材について

本題材では、シャボンによる表現によってできる模様に着目し、形や色から見立てることを通して、表したいことを見付け、工夫して表す力の育成を目指す。シャボンによる表現には、偶発的な表現と意図的な表現の二つのよさがあると捉えている。一つは偶然できる形や色の面白さを味わいながら活動する中で、「見立てる」という造形的な見方・考え方を促すことであり、本題材における「学びのものさし」として働かせていく。同じ模様であっても、子どもによって何に見立てるかが異なり、友達と自分の見方・考え方の違いに気付く面白さがある。また、表したいことを見付けることが難しい子どもの助けになると考える。もう一つの意図的なシャボンでは、表したいことを見つけた上で行うことで、表し方を工夫する力の育成が期待される。このように前題材で獲得した「見立てる」という「学びのものさし」を、表したいことを見付けるために再び働かせようとする姿、そして表したいことを表すために工夫する姿を学びのものさしの更新と捉える。

鑑賞の活動を、表現活動の途中に位置付ける。その際に扱う作品のうち、『スイミー』の挿絵では、色の組み合わせに着目した見方、形の一部を切り取って全体を想像させるなどの画面構成に着目した見方に気付かせることをねらう。国語科で学習した作品に絵という表現を通して再び触れることは、言葉で味わった海の世界を造形的な視点でも味わい、自分なりの海の世界を広げていくことにつながるだろう。

(3) 指導について

シャボンによる表現によってできた模様を見て、「〇〇みたい」と、子どもたちの中から「見立てる」という造形的な見方・考え方が出てくることが予想される。そうした発言を取り上げ、見立てる表現によって想像を広げていくことにつなげたい。見立てることが難しい子どももいると考えられるため、始めは全体で一つの模様を取り上げてどんな海の世界に見えるか話し合う活動を設定する。また、グループの友達と見立てたことを話す時間を取ったり、角度を変えるとといった工夫した見方をしている子どもを全体の場で取り上げたりして、友達との関わりの中から見立て方に気付くことができるようにしたい。

造形遊びとして行うシャボンによる表現は、泡の出来方によって模様の付き方が左右されるため、偶発的な表現の面白さだけでなく難しさも感じることを予想される。試行錯誤する中で、丁度よい泡の作り方に気付くことができるように複数回試す機会を保障する。子どもによっては、シャボンによる表現を今度は意図的に活用したいという思いをもつことも考えられることから、ペンなどの描画材料とともにシャボンコーナーを設け、表したいことに合った表し方を自分で選択できるようにしたい。

鑑賞の活動では、子どもたちの表現に幅を生み、高めていくことができるよう、『スイミー』の挿絵や参考作品などを段階を踏まえて扱う。どのような表現が使われているか話し合う際、例えば『スイミー』の挿絵では形の全体と部分というように、比べて考えることを促す問かけを行うことで、その表現の効果に迫ることができるようにする。また教師が子どもの表現のよさを見取り、全体で紹介する時間を設定したい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 手や体全体の感覚を働かせて表現を行い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができる。 (c12、e26、e27、e30)
- (2) シャボンによる表現でできた模様の形や色などを基に表したいことを見付け、どのように表すかについて考えることができる。 (d19、d20)
- (3) 楽しく海の世界を表現したり、鑑賞したりする活動に取り組む。 (a1、f34、f35)

4 題材の構想 (総時数 8 時間)

えのぐをたらしめたかたちから
偶然にできた絵の具の形や色をもとに表したいことを見付け、どのように表すかを考えることができる。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1 2	(1) シャボンによる表現で紙に模様を付ける。 ・泡が細かすぎると、きれいに模様が付かないな。 ・絵の具を増やすと、色を濃くできるね。 ・泡の模様が海の中みたいだね。	・偶発的な表現の面白さを味わい、模様の付け方のコツに気付くことができるように、試行錯誤する機会を保障する。	・偶発的な表現の面白さを味わいながら活動している。 (a1、c12、e26)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> シャボンでじぶんだけの海のものごたりにつくろう。 </div>			
3 4	(2) 課題を知り、再度シャボンによる表現をする。	・色に着目した表現の工夫につなげることができるように、『スイミー』の挿絵を鑑賞する活動を設定する。	・挿絵を鑑賞し、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取っている。 (f 34、f 35)
5 6 本時 7	(3) 見立てたり、想像したりしたことを表す。 ・この模様がクラゲみたいに見えるよ。 ・明るい海の世界を表したい。 ・模様のこの部分だけ使いたいな。 ・またシャボンを使って、水の中の感じを出したいな。	・「見立てる」ことから想像していく見通しをもつことができるように、一つの模様を取り上げてどんな海の世界か話し合う活動を設定する。 ・表したいことに合わせて表し方を考えることができるように、これまで経験した描画材料を選択できる場の設定をする。 ・表現に幅を生み、高めていくことができるよう、『スイミー』の挿絵や参考作品などの鑑賞を段階を踏まえて行う。	・見立てたり、想像したりしながら海の世界を表現する学習に楽しく取り組もうとしている。 (a1) ・シャボンによる表現でできた模様の形や色などを基に表したいことを見付け、どのように表すかを考えている。 (d19、d20) ・表したいことに合わせて工夫して表している。 (e27、e30)
8	(4) 友達と作品を見合い、造形的な面白さや楽しさなどを味わう。 ・自分とは違う海のものごたりにあっておもしろいな。	・鑑賞する楽しさを実感することができるように、友達の表現のよさや自分の思いを伝え合う時間を設定する。	・友達の作品から造形的な面白さや楽しさなどについて、感じ取っている。 (f 34、f 35)

◎本題材で育む主な資質・能力
シャボンによる表現によってできる模様に着目し、形や色から見立てることを通して、表したいことを見付け、工夫して表す力
(d19、e27)

あなのむこうはふしぎなせかい
「あな」という言葉から想像して表したいことを見付け、どのように表すかを考えることができる。

5 本時の実際（6／8）

(1) ねらい 画面構成に着目して作品を鑑賞する活動を通して、表したいことを工夫して表すことができる。 (e27)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
7分	<p>① めあてを確認し、表し方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、どのような表し方ができそうか確認する。
34分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 見立てたことをつかって、海のせかいをあらわそう。</p> </div> <p><予想される子どもの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前にやった時みたいに、ペンやクレヨンで描き足したいな。 ・模様を切って貼りたいな。 ・もう一度シャボンで模様を付けたいな。 <p>② 見立てたことや思い付いたことを表す。</p> <p><予想される子どもの反応></p> <p>【ペンやクレヨンなどの描画材料で描き足す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外側の線をなぞって、もっとクラゲらしくしよう。 ・泡の模様の上から色を塗って、グラデーションにしてみよう。 <p>【模様を切り貼りする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙の上で場所を動かせるから考えやすいな。 ・形を組み合わせたら、別のものに見えてきたよ。 <p>【意図的にシャボンによる表現を行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水色の泡の模様を付けて、海の中らしくしよう。 ・カメみたいな形がここにもう一つほしいな。 <p>【表したいことがあるが困り感をもっている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形がいっぱいでごちゃごちゃするな。 ・泳いでいるように見えないな。 ・泡が思い通りの形にならないな。 <p>【次にやることが見えていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部描き足したから、もうやることがなくなっちゃった。 ・貼ってみたけれど、次にどうしたらよいんだろう。 ・とりあえずもう一回シャボンをしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○画面構成に着目した工夫につながるができるように、『スイミー』の挿絵などを鑑賞する活動を設定する。 ○表したいことに合わせて表し方を自分で選択することができるように、これまで経験した描画材料を準備しておく。 ・表現が停滞している子どもがいた場合は、鑑賞で学習したことを模倣してもよいことを助言する。 ・表したいことを見付けることが難しい子どもがいた場合は、再度一緒に形や色から見立ててみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>表したいことに合わせて、描き足したり、切り貼りしたりして工夫して表している。</p> <p style="text-align: right;">(e27)</p> <p style="text-align: center;">(活動の様子・対話・作品)</p> </div>
4分	<p>③ 学習を振り返る。</p> <p><予想される子どもの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・描いてるうちに物語が浮かんできたから、次もペンやクレヨンでもっと描き足したいな。 ・シャボンで同じような形をまた作りたかったけれど、思ったようにできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びを共有し、次時の活動につなげることができるように、気付いたことや次時に頑張りたいことを問いかける。

令和5年度 図画工作科実践・研究計画

部 員	○小室 真紀、三浦 茉莉
-----	--------------

研究テーマ
表したいことをはっきりともち、学びのものさしを活用しながら表現を工夫していく子どもを育む学び

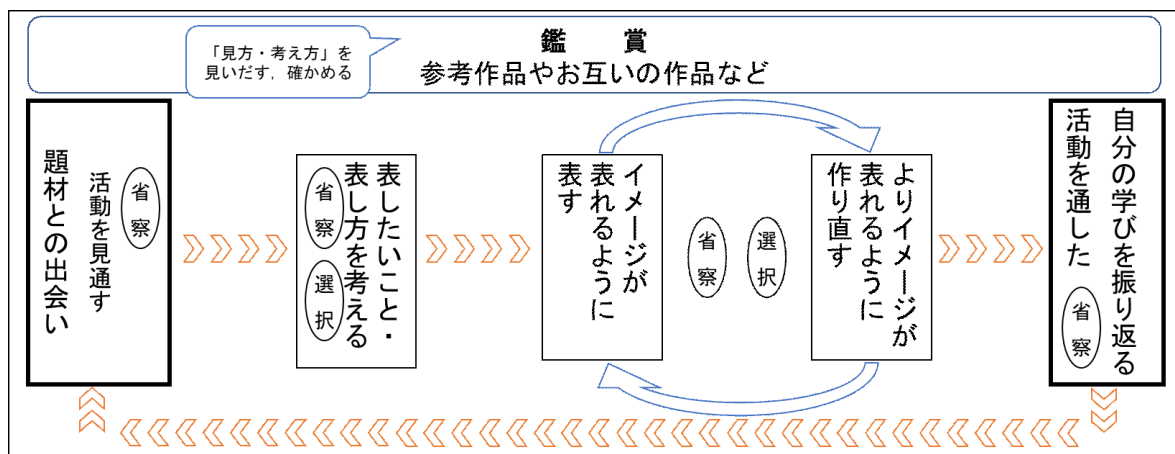
1 研究テーマについて

図画工作科の特質は、自分が表したいイメージを形や色で表すことである。「できた」と話す子どもの中には「どうしてその色を選んだの?」「これらの形を組み合わせた意図は?」と問いかげられたことに対して言葉をつぐんでしまう子ども、もうこれで十分という子どもも見られることから表したいことと表現とのつながりを根気強く深めていくという点で課題が残った。形や色に着目した「見方・考え方」そのものが「学びのものさし」ともなる。表したいものと向き合って試行錯誤していくときの支えになっていくのが省察であり、省察の場は学びのすべての場面に成される。仲間と共に学ぶ中で「この色でよいのか」「表したいことが作品から伝わってくるのか」自分自身に問いかけ続ける省察が表現をより色濃くしていくのだと考える。

そして、鑑賞の在り方が大きくかかわってくる。表現と鑑賞は互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、補い合って高まっていく活動である。自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見合い、自分の見方や感じ方を深めていくことで、表したいことを見付ける力が高まっていったり、表現の幅が広がっていったりするものと考えている。よって、表現と鑑賞を連動させ、自分が表したいことをはっきりともつことを大切にしながら自分の「学びのものさし」を更新して作品づくりに取り組む子どもの姿を目指し、実践を積み重ねていく。

図画工作科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 表したいイメージに近付くように表し方を工夫したり、造形的な活動を工夫したりしながら、「学びのものさし」を更新していく姿。
- ・ 作品づくりや鑑賞を通して作品などに対する見方や感じ方を広げ深め、自分の学びを自覚し、今後に生かそうとする姿。



図：図画工作科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせながら、表現や活動を工夫していく子どもを支えるための手立て

- お互いの作品や活動を鑑賞したり、対話したりしながら、「学びのものさし」を確かめ、更新していくことができるような省察の在り方の工夫。
- 子どもとの対話を通して、子ども一人一人の表したいことを見取り、表したいことが効果的に表現できるような気付きにつながる学習活動の工夫。

令和5年度「図画工作科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
図工科の学びに向かう力、人間性等	a1	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	1.2AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	a2	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	3.4AB(1)(2)		□	■	■	■	■
	a3	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	5.6AB(1)(2)				□	■	■
	a4	形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。	1.2AB(1)(2) 3.4AB(1)(2) 5.6AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	b5	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b6	感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するのかについて考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b7	身近な自然物や場所などを基に造形的な活動を思い付く。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b8	新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するのかについて考える。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b9	材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く。	5.6A(1)(2)					■	■
	b10	構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するのかについて考える。	5.6A(1)(2)					■	■

図工科の各領域の付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	c11	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c12	並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c13	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c14	前学年までに扱った材料や用具についての経験を生かす。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c15	組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c16	活動に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c17	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かす。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c18	前学年までに習得した方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	d19	感じたこと、想像したことから、表したいことを見付ける。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d20	好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかを考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d21	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付ける。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d22	表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかを考える。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d23	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付ける。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	d24	形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	e25	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e26	手や体全体の感覚などを働かせて表す。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e27	表したいことを工夫して描いたりつくったりする。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e28	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e29	前学年までの材料や用具についての経験を生かして表す。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e30	手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e31	表現方法に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e32	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かして表す。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e33	表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 B鑑賞	f34	自分たちの作品や身近な材料などを鑑賞する。(身の回りの作品など)	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f35	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f36	自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などを鑑賞する。(身近にある作品など)	3. 4B		□	■	■	■	■
	f37	造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	3. 4B		□	■	■	■	■
	f38	自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する。(親しみのある作品など)	5. 6B				□	■	■
	f39	造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりする。	5. 6B				□	■	■
	f40	鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を広げる。	1.2B(1)(2) 3.4B(1)(2) 5.6B(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の〔共通事項〕 「知識」 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現 B鑑賞	g41	形や色の同じ、違う、似ている、似ていない、大小、長短、丸・三角・四角などの大まかなまとまり、触った感じなどを捉える。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g42	偶然見つけた形や色、見立てなどを基に、自分のイメージをもつ。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g43	形の柔らかさ、色の暖かさ、それらの組み合わせによる感じ、重なり、前後、色の明るさ、質感などを捉える。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g44	形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に、自分のイメージをもつ。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g45	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化の動き、量感などを捉える。	5.6AB				□	■	■
	g46	形や色などの造形的な特徴を基に、具体的なイメージや、抽象的なイメージをもつ。	5.6AB				□	■	■

<図工科の学びを支える造形的な「見方・考え方」>

- a 対象や事象を形や色などの造形的視点で捉える。(形の大小, 色の濃淡, 動き, バランス, 色の鮮やかさ, 形や色の感じなど)
- b 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す。(表したいことをもつ, 自分と対象との関わりを深めるなど)

低学年	・並べる ・つなぐ ・積む ・重ねる ・かぶせる ・丸める ・破る ・巻く ・つるす ・たらす ・ちぎる ・丸める ・のぼす ・同じ違う ・似ている似ていない ・大小 ・長短 ・丸, 三角, 四角の大まかなまとまりでとらえる ・見立てる
中学年	・変形 ・質感 ・色の組み合わせ ・向き ・しかげや動くしくみ ・切ってつなぐ ・線の太さ ・絵の具の水加減(色の濃さ) ・色の混ぜ方 ・色の明るさ, やわらかさ ・意味付ける
高学年	・奥行き ・強調 ・線の強さ ・バランス ・前後関係 ・形や色が互いに響き合う配置 ・動き ・時間的な変化 ・色の鮮やかさ ・色の変化